

「自転車とつながる公共交通の未来シンポジウム」の開催結果について

令和7年6月26日
観光戦略課

全国のサイクルツーリズムに取り組む事業者や自治体が一堂に会し、各地のサイクルトレイン・サイクルバスの先進的な取組や課題を共有するとともに、ナショナルサイクルルート(NCR)指定に向けた機運醸成、情報発信を目的として「自転車とつながる公共交通の未来シンポジウム」を開催しましたので、結果を報告します。

1 シンポジウム概要

- (1) 日程 令和7年6月21日(土) 午後2時～5時30分
- (2) 場所 鳥取市民会館 大ホール
- (3) 主催 鳥取県 後援 国土交通省自転車活用推進本部事務局
- (4) 参加者 約150名

※主な参加者:国土交通省鉄道局、中国運輸局鉄道部、鳥取県議会 自転車活用推進議員連盟、西日本旅客鉄道(株)、智頭急行(株)、日本交通(株)、日ノ丸自動車(株)、(一社)鳥取県ハイヤータクシー協会、鳥取県商工会議所、鳥取県商工会連合会、県内外市町村、滋賀県、福井県、奈良県、兵庫県、島根県、(株)ARCH 高橋幸博代表、徳島大学 山中英生教授、(一社)日本サイクルツーリズム推進協会 宮内忍氏

ア 基調講演

「自転車と公共交通が共生するまちづくり」 東海大学 准教授 鈴木 美緒 氏
(主な講演内容)

- ・ヨーロッパの事例から、「日本でサイクルトレイン・サイクルバスを推進していくには、自転車と公共交通機関の連携を交通施策として進めていくことが必要である。」
- ・サイクルトレイン・バスを活用した移動機会の拡大は、利用者や交通事業者、自治体すべてにメリットがあり、まずはできる範囲でやってみることが重要である。

イ 話題提供

「自転車×公共交通のススメ」 (元)国土交通省 自転車活用推進本部 事務局次長 金籠 史彦 氏
(主な講演内容)

- ・自転車と公共交通機関との連携を進め、移動可能なエリアを点から面に広げていくことで、自転車利用者や公共交通機関、地域によりメリットが生まれていく。
- ・全国や海外のサイクルトレイン・サイクルバスの取組のほか、サイクルツーリズムに関する制度や施策、最近の動向などを紹介。

ウ 事例紹介

東日本旅客鉄道(株)水戸支社、近畿日本鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)山陰支社
神姫バス(株)、愛知県田原市

エ パネルディスカッション

「サイクルトレイン&バス、実現に向けた課題とその乗り越え方」
パネリスト:東日本旅客鉄道(株)水戸支社、神姫バス(株)、愛知県田原市
(主な内容)

- ・サイクルトレインなどサイクルツーリズムの推進には、自治体と交通事業者、広域連携などのコミュニケーションが必要である。



【パネルディスカッション】

2 シンポジウムの開催結果

- 公共交通と自転車の連携の有用性を確認することができたほか、全国各地のサイクルトレイン・バスの先進的な取組や課題とその対応策の共有をすることができた。
- 今後、サイクルトレイン・サイクルバスをさらに推進するためには、「サイクルトレイン・サイクルバスの導入手引き」(作成・国土交通省)のバージョンアップをすべきとの意見が出された。
- 県内の市町村やサイクルツーリズム事業者のNCR指定に向けた機運醸成に繋がった。

3 エクスカーションライド(22日(日)に3地区で実施)

- (1) 岩美・鳥取コース(16名) 東浜駅から鳥取砂丘までの鳥取うみなみロードを実走
 - ・矢羽根等がきちんと整備されており、車の交通量も少なく、非常に走りやすいコースだった。
- (2) 倉吉コース(8名) サイクルトレインで移動後、倉吉市内をポタリング
 - ・サイクリングガイドの丁寧な案内で、県立美術館や白壁土蔵群など倉吉市の名所に寄ることができ、非常に満足。
- (3) 大山コース(7名) 大山博労座から下市駅までのダウンヒルコース
 - ・下りが主体なので年齢や体力に関係なく楽しめるコースだと感じた。
 - ・ダウンヒルのスタート地点までの自転車輸送(サイクルバス)があるとより多くの方が利用するのではと思う。



【エクスカーション(岩美町内)】

- 全国の交通事業者やサイクルツーリズム関係者に、エクスカーションライドを通じて、鳥取うみなみロードや鳥取うみなみサイクルトレインをはじめ鳥取の魅力を肌で感じていただき、再度来県したいという声もあった。